

令和7年度 【洲本市】 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

共生と予防の観点から、認知症予防・早期発見の推進とともに、認知症地域支援ネットワークの強化、家族介護者の支援に取り組んでいる。

①市民の認知症に対する理解を進める地域づくり

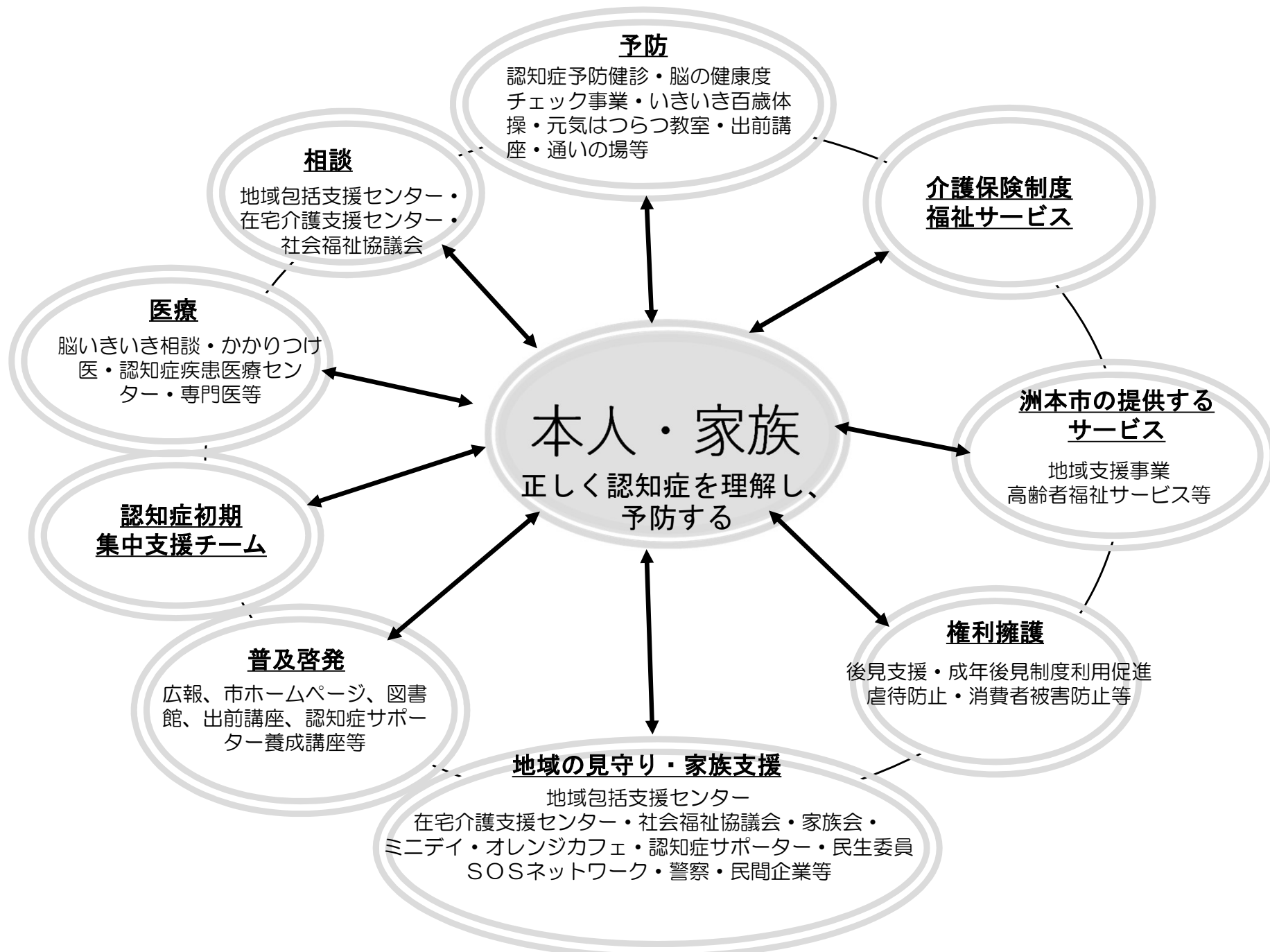
②認知症の相談窓口の広報周知

③早期発見・早期対応のための認知症施策の推進

④認知症の正しい理解の普及啓発・予防の推進

報告者氏名:洲本市地域包括支援センター : 岡田 香苗、佐々木 枝里
 洲本市介護福祉課長寿支援係長 : 村崎 千昌

【洲本市】 認知症施策全体図



標題 洲本市における認知症予防の推進について

洲本市の現状と課題

<現状>

- ①認知症に対して悪いイメージを持つ人が多い。
- ②認知症に関する相談窓口の認知度が低い。
- ③近隣や別居家族とのつながりの希薄化により早めの気づきが減少。

<課題>

- ①早期相談につなぐににくいいため、身寄りのない独居高齢者や8050問題・高齢者虐待・金銭管理等、認知症高齢者が絡んで問題が複雑化している。
- ②認知症の正しい理解の普及啓発や予防に重点をおいた地域づくりの推進の必要がある。



令和7年度より 脳の健康度チェック事業に取り組む

脳の健康度チェック事業の概要

目的

高齢者が脳の健康や認知症について理解を深め、生活習慣を意識する機会をつくる。また認知機能等にリスクを抱える高齢者に対し早期対応に向けた支援体制を構築する。

対象者

市の特定健診受診者で年度末年齢70～74歳のうち、脳の健康度チェックを希望する者。

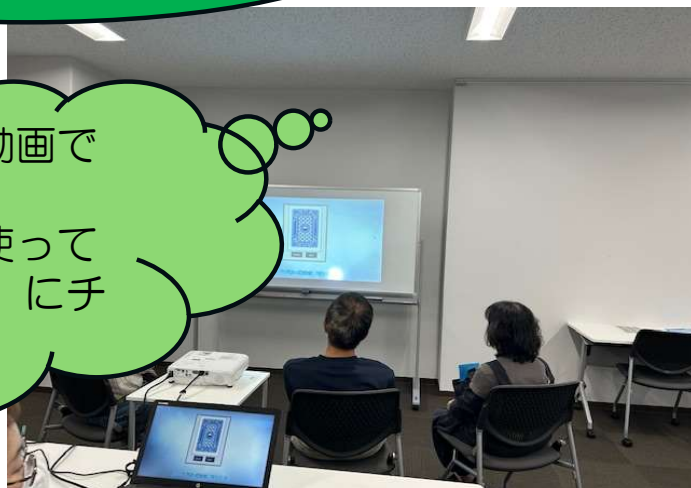
内容

- ①対象者に個別通知。予約制で一日最大8人ずつ参加。
- ②ノートパソコン等を使った認知症の簡易検査を実施。個別面談で健診結果等見ながら、脳の健康に良い生活習慣について情報提供。
- ③チェック検査の結果、必要な方は相談窓口の紹介、医療機関、介護保険等サービス、地域の社会資源等へつなぐ。

脳の健康度チェック事業の流れ

脳の健康度チェック

- ①操作方法を動画で確認
- ②パソコンを使って「のうKNOW」にチャレンジ!



個別相談会

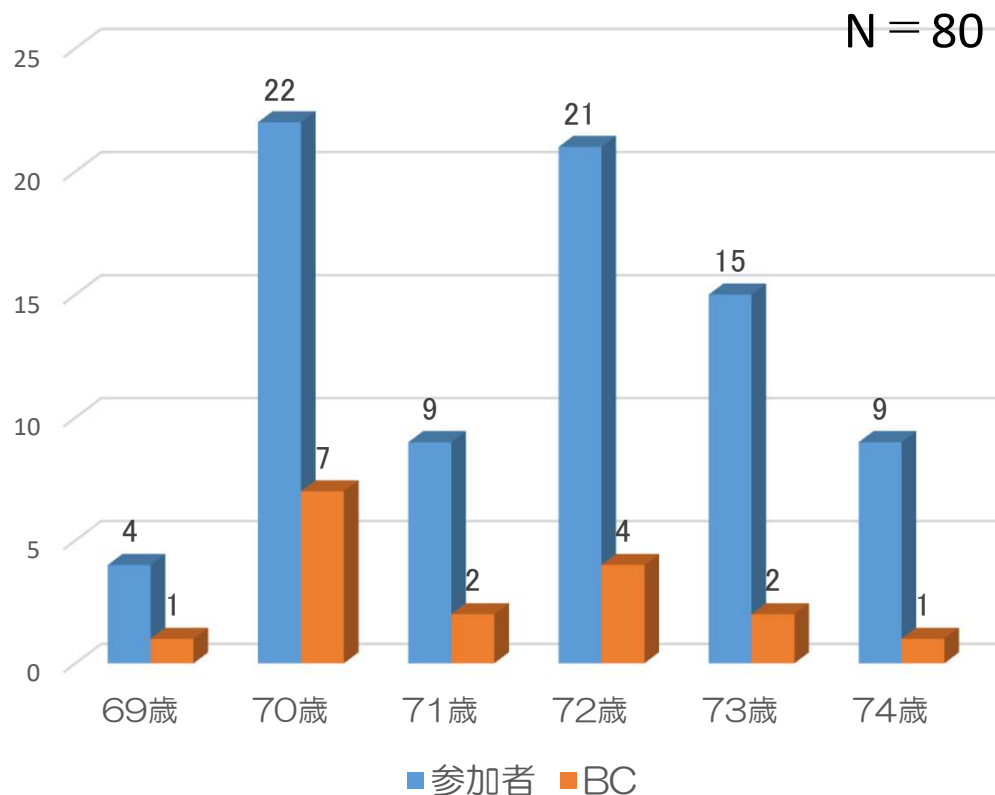
- ③「脳の健康度」結果確認
- ④日ごろの生活と健診結果を合わせて、自分の脳を元気にする生活スタイルを考える!



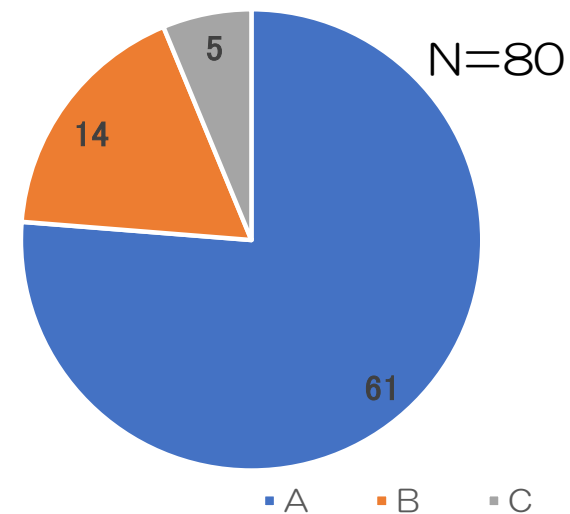
実績および参加者の内訳

参加者：80名。案内827通。参加率：9.7%
フォロー者（記憶力スコアB・C判定）：19名。
要フォロー者出現率：23.7%

年齢別人数と記憶力B・C人数



記憶力スコア結果



記憶力スコア
A：正常
B：ボーダーライン
C：維持向上のための活動必要

実施しての効果と課題

○効果

- 自分の脳の健康状態を確認し、予防のための生活習慣に意識を向ける機会となった。
- MCI疑いの状態の人に出会える機会になっている。

○課題

- 要フォロー者に対しかかりつけ医への相談を勧めたが、「パソコン操作が難しかった」、「今日はたまたまこの結果になった」等、相談の必要性を感じてもらうことは難しかった。
- 半年後の電話フォローだけでは、生活習慣改善の意識を継続することは難しく、今後事後フォローについて検討が必要である。

今後の方向性

「脳の健康度チェック事業」の継続により、健康な時から体と脳の健康に関心を持ち、予防に取り組む人を増やしていく。

認知症になっても安心して自分らしく過ごせる地域づくりのため、認知症の正しい理解の啓発を推進し、早期相談・早期対応につなげていく。